慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	デファクト・スタンダードが形成されるプロセス
Sub Title	
Author	朴ジュン榮 古川公成
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1995
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1995年度経営学 第1189号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001995-1189

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 1189

学生氏名　　朴　　晙榮　　主査　古川　公成
副査　小野桂之介
河野　宏和

所属　　古川　公成　研究室

デファクト・スタンダードが形成されるプロセス

本論文では、デファクト・スタンダード（事実上の標準）の形成プロセスについて考察する。その目的とは、今から自社の規格をデファクト・スタンダードにする企業に対し、デファクト・スタンダード形成にある背景とパターンを紹介し、デファクト・スタンダードを可能にするためのヒントを提示していくことにある。

家庭用VTRにおけるVHS方式とベータマックス方式の標準化への戦いのように規格競争を「ほぼ同一の機能を提供する製品に関して、基本的規格が異なる複数の製品が存在する場合に行われる企業間競争」と呼んでいる。最近、規格競争の激化は以前より著しくなってきていて、とりわけ通信・情報やエレクトロニクス分野では競争が繰り広げられている。

本論文は、決着が着いた規格を中心に展開し、デファクト・スタンダードとその事例に関する著書、論文、記事などを収集し、検討する。また、デファクト・スタンダードの定義、必要性、激化を検討する。デファクト・スタンダードと公的な標準を示して、デファクト・スタンダードの形成プロセスに似てきた公的な標準の背景を説明し、なぜデファクト・スタンダードが決まるのか、を整理する。本論文の中心になる事例であるVTR、ビデオディスク、日本におけるパソコンを通して各々の製品にどんな規格がどんな企業行動でデファクト・スタンダードになったのか、その事実関係を整理する。すなわち、なぜある規格が事実上の標準になったのか、を記述してみる。さらに、VTR、ビデオディスク、パソコン三つの事例を幾つの切り口から考察し、デファクト・スタンダードに関して理解を深める作業をする。まず、名和と山田各々のフレームワークで分析し、三つの事例に見える共通点あるいは相違点を発掘し、整理する。